

令和7年度 銀座通りパークレット社会実験 報告書【概要版】



～人が集い、憩える“まちなか”をめざして～

令和7年10月、銀座通りで11日間にわたり「パークレット社会実験」を実施しました。パークレットとは、道路の一部を歩行者が滞留・休憩できる空間・使い方にする試みです。この実験は、人中心の居心地の良いまちなかづくりに向けた第一歩となります。多くの市民の皆さまにご参加・ご協力いただき、貴重なデータと気づきを得ることができました。

1. なぜこの実験を行ったのか？

鶴岡市では「賑わい × 居場所 × 観光」を軸に、人中心のまちなかづくりを進めています。銀座通りはその中心となる南北軸であり、令和7年7月30日からの川端通りの一方通行解除により通過交通の受け皿ができたことで、“道路を人に取り戻す”実験が可能になりました。

【実験の3つのねらい】

- ① 歩車分離などの街路整備方針にデータで根拠を与えること
- ② アーケード下公共空間の活用ルールをつくること
- ③ 将来像を“体験”として市民・商店街と共有すること

2. 実験の概要

【実施期間】

令和7年10/9（木）～10/19（日）※終日

【対象区間】

銀座通り2街区～3街区 L=約270m

【実施内容】

- 車線を1車線減らして歩道や停車帯を暫定設置
- アーケード下の公共空間を商店街と連携して多様に活用
- アンケートや通行量調査で効果を測定



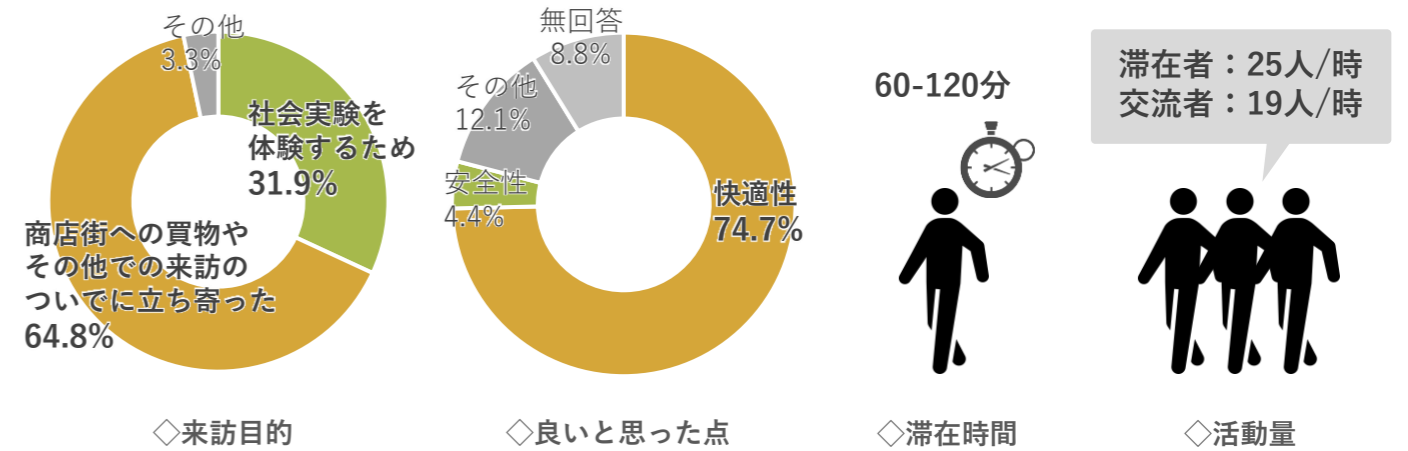
◇社会実験対象区間



3. 実験で分かった3つの成果

01 人が留まる行動が確認できました

銀座通りには人が留まる空間的な可能性があることが確認できました。



利用者聞き取り調査結果/居心地調査結果

02 店舗利用行動に「小さな変化の兆し」が見られました

パークレットは、条件が整えば回遊や立ち寄りを生む“きっかけ”になり得ることが分かりました。



03 公民共創の関係が「実践段階」に入りつつあります

将来的なエリアマネジメントや民間主体の運営へ進むための実践的な土台が作られました。

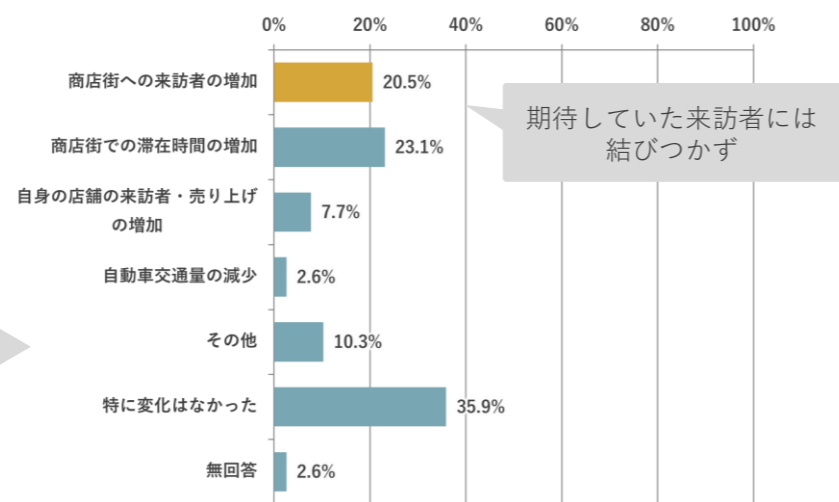


01 店舗の期待と体感効果のギャップ

滞在を店舗への立ち寄り・売上につなげる仕組みづくりに取り組みます。



◇期待すること（実施前）

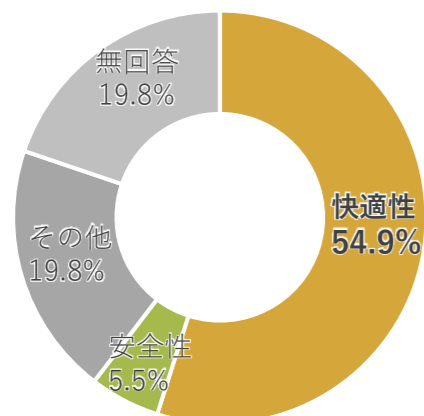


◇良かったこと（実施後）

商店街に対する事前・事後調査

02 過ごし方の選択肢が少なく、滞在が広がりにくかった

ターゲットを明確化し、長く楽しめる“中身”を充実させつつ、その担い手の拡大に取り組みます。



◇体験後の改善点



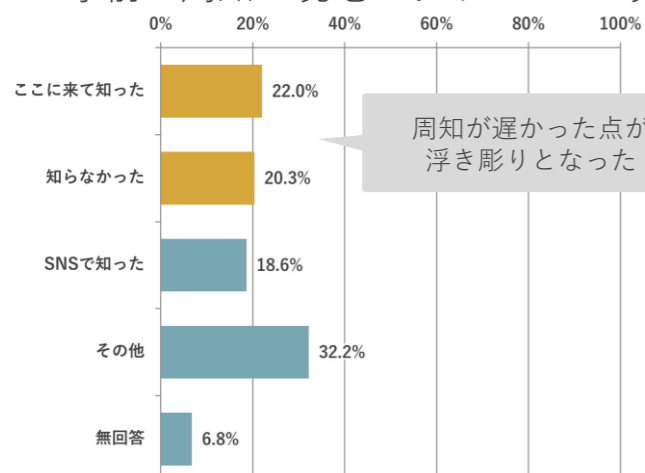
◇快適性に関する主な意見

企画やイベント情報が十分に届いていなかった

利用者聞き取り調査結果

03 周知不足・実験の分かりにくさ

事前の周知・現地のサイン・SNS発信を一体的に設計します。



◇パークレット社会実験のことを知った経緯



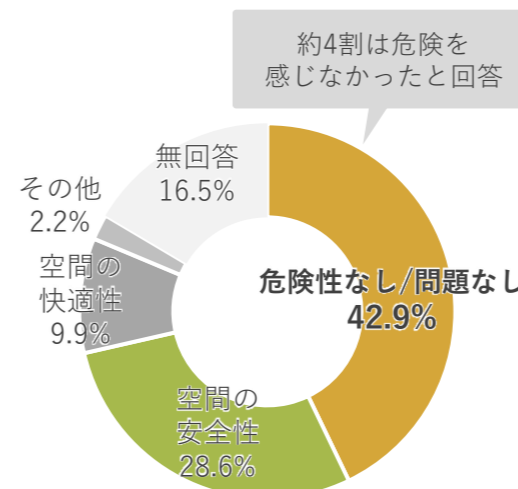
◇利用者からの声

利用者聞き取り調査結果

04

自転車・歩行者の導線・横断の設計改善

横断位置・自転車を含めた安全なゾーン分けを再設定し、分かりやすい導線設計にします。



◇歩行空間となった車道を歩いた際の危険性

【空間の快適性について】

- ・車道が歩行者空間だと分かりづらい
- ・目立つパイロンの方がいいのかもしれませんが景観は悪いですね
- ・どこを歩いていいのかが分かりづらい。手すりに沿って動線を作るなどしたほうが良い

【空間の安全性について】

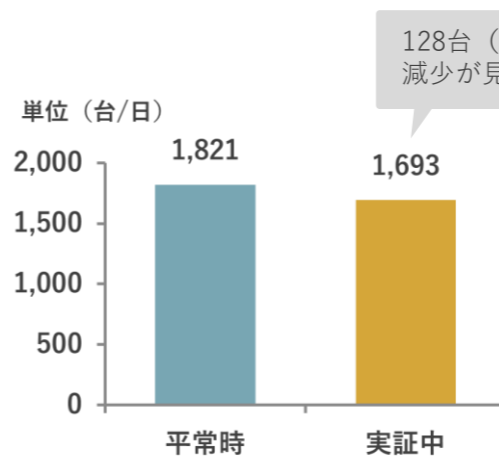
- ・歩道が狭い
- ・横断時にフェンスがあって移動しにくい
- ・交通量が多く横断時に危険
- ・横断歩道や車道の真ん中を進む自転車が怖い
- ・猫が横切ると危ない
- ・親御さんが見ていけば問題ない
- ・夜、車を走行するときは怖いかも
- ・車がもう少し減速して走ってほしいです

利用者聞き取り調査結果

05

自動車通過交通の流入抑制の検討

より快適な滞留空間とするため、通過交通を川端通りに誘導するとともに、停車帯についても検討します。



◇自動車交通量（銀座通り商店街）※休日



◇利用者からの声

歩行者・自転車通行量及び自動車交通量調査/利用者聞き取り調査結果

06

アーケード老朽化への対応

商店街が所有するアーケードは築約40年が経過しているため、今後どのように更新・活用していくか、街路整備と合わせた検討を進めます。

5. まとめ

- ・今回の社会実験では、銀座通りに「人が留まる」「交流が生まれる」という新しい風景が生まれました。一方で、その変化を店舗の売上などの経済効果につなげるためには、導線設計、情報発信、過ごし方の充実、店舗側の主体的な関与といった工夫が必要であることも分かりました。
- ・この実験は、「やってみなければ分からなかったこと」を可視化し、次に進むための共通認識を関係者間で共有できた点に意義があります。
- ・今後も市民の皆さま、商店街、行政が一体となって、人中心の居心地の良いまちなごづくりを進めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。